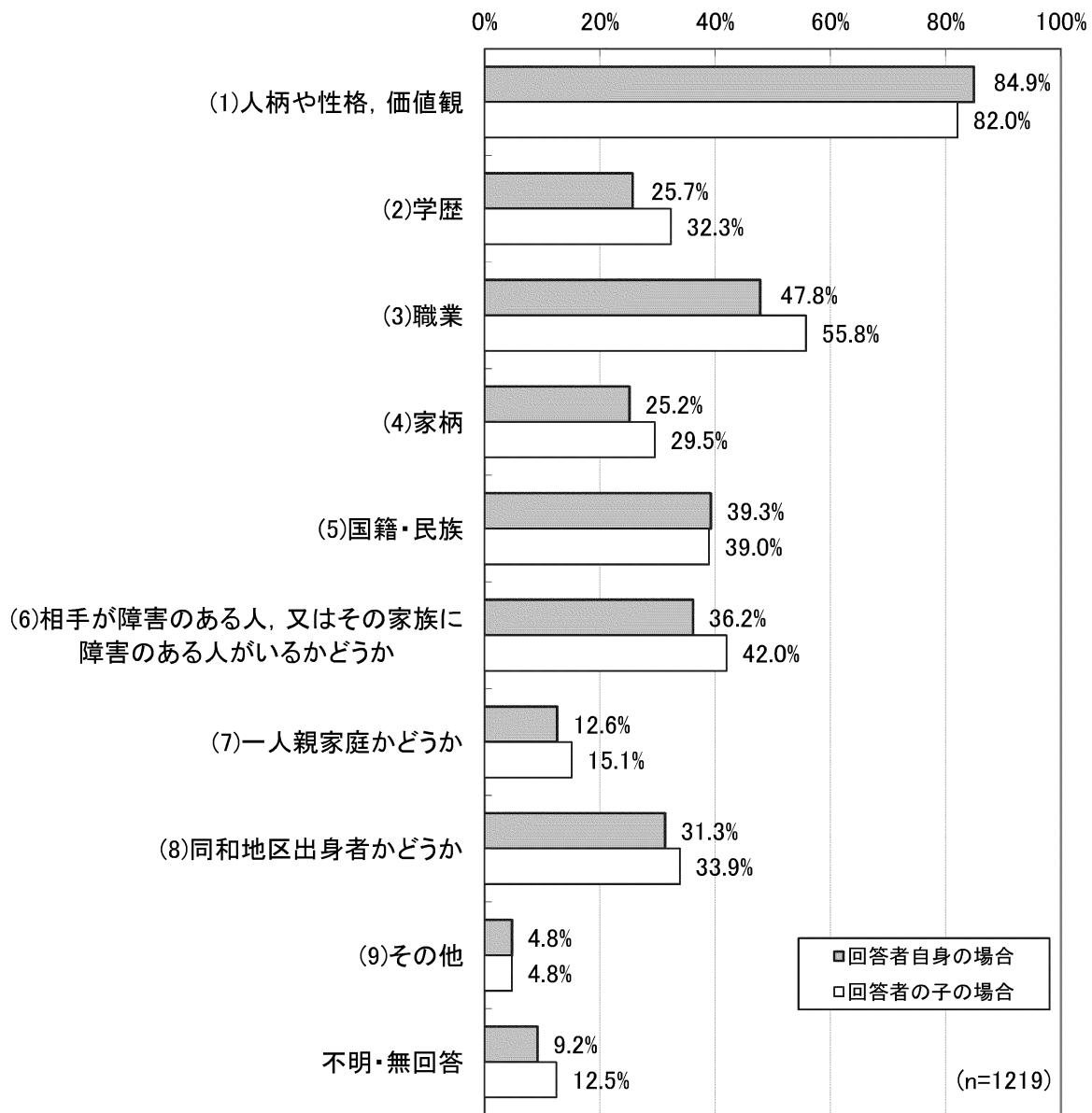


(2) 日常の場面での人権意識について

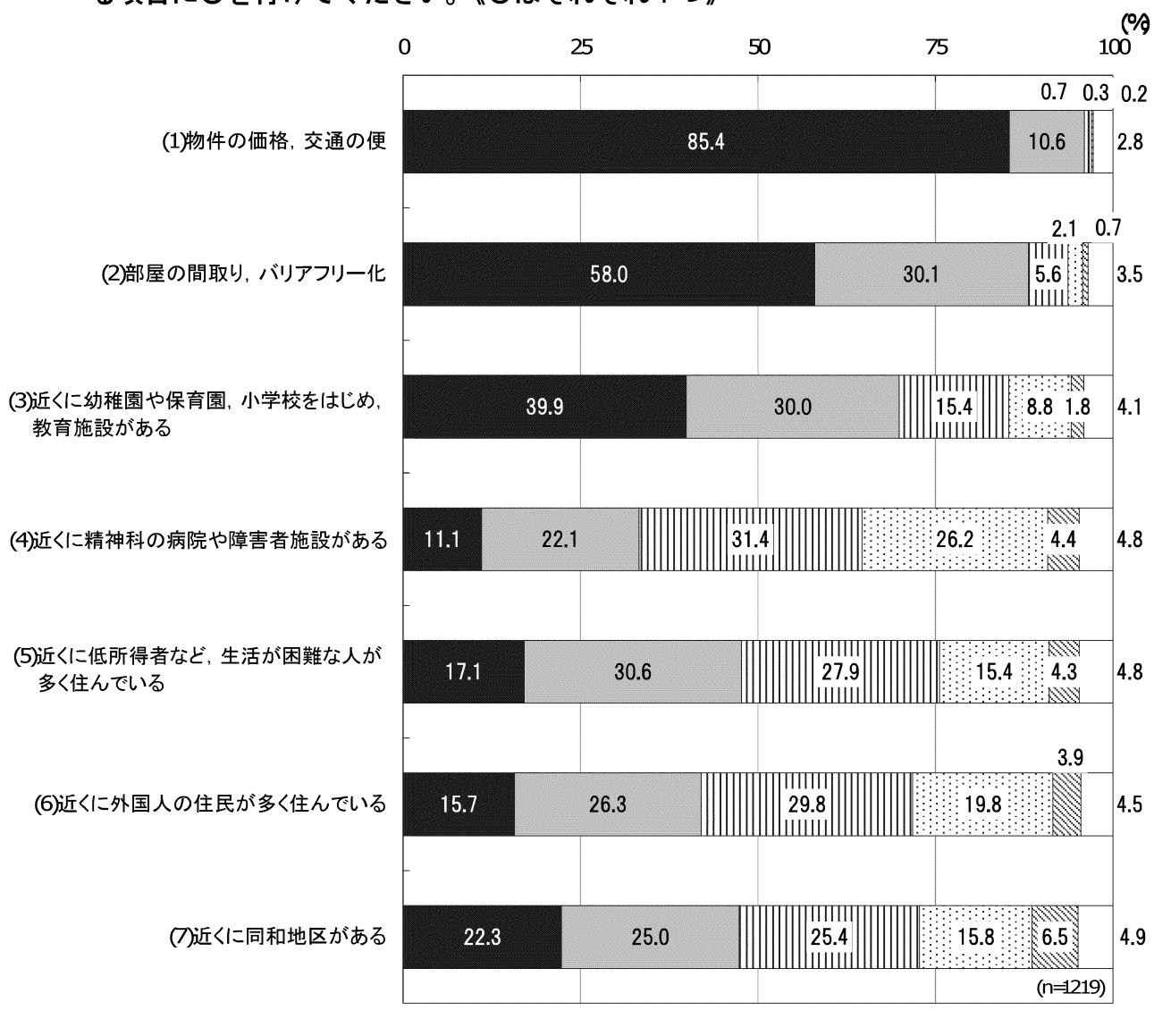
問6 結婚相手を考える際に、気になること（なったこと）はどんなことですか。
あなた自身の結婚の場合と、お子さんの結婚の場合とに分け、気になる項目に○を付けてください。お子さんがいらっしゃらない方も、いると想定してお答えください。
《〇はいくつでも》



人柄や性格、価値観以外にも気になる点があるという回答が多い

回答者自身、回答者の子について、共に、「(1) 人柄や性格、価値観」が8割を超えてい
るほか、「(3) 職業」が半数程度、「(5) 国籍・民族」、「(6) 相手が障害のある人、又はそ
の家族に障害のある人がいるかどうか」が4割程度、「(8) 同和地区出身者かどうか」など
については3割程度の人が気になると回答している。

問7 家を購入したり、マンションを借りたりするなど、住宅を選ぶ際に、あなたが気になる項目に○を付けてください。《○はそれぞれ1つ》



■ 気になる ■ どちらかと言えば気になる ■ どちらかと言えば気にならない □ 気にならない □ 分からない □ 不明・無回答

近くに生活が困難な人や外国人が住んでいること、同和地区があることを気にする人が半数近く

人権に関わる項目として、「(5) 近くに低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる」、「(6) 近くに外国人の住民が多く住んでいる」、「(7) 近くに同和地区がある」について、「気になる」、「どちらかと言えば気になる」と回答した人の割合を合わせると、半数近くの人が気になると回答している。

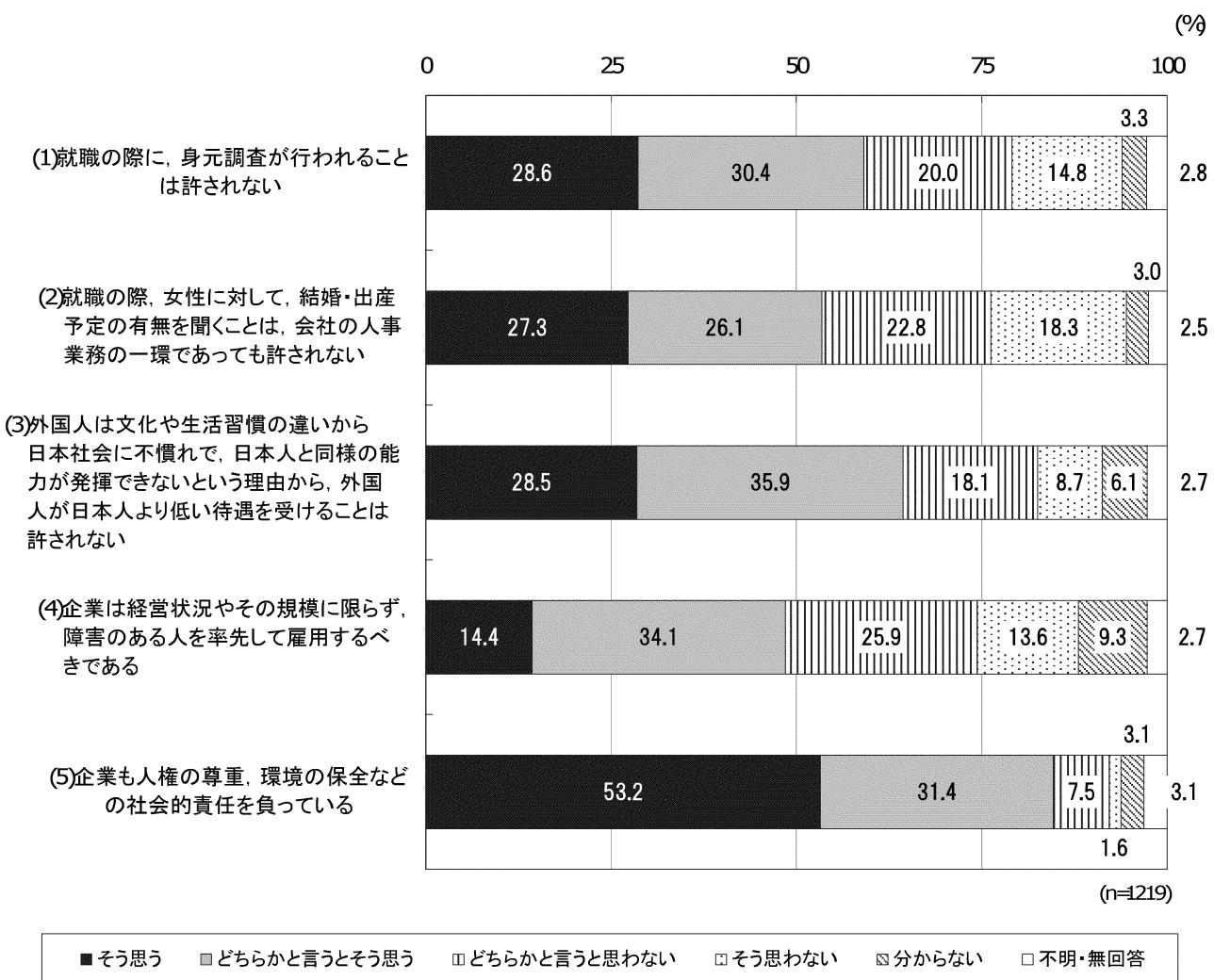
性別でみると、全ての項目で女性の方が「気になる」、「どちらかと言えば気になる」と回答する傾向が強い。

◆加重平均(性別・年代)

	男 (n=510)	女 (n=696)	20歳代 (n=108)	30歳代 (n=168)	40歳代 (n=182)	50歳代 (n=203)	60歳代 (n=270)	70歳以上 (n=281)	全体 (n=1219)
(1)物件の価格、交通の便	1.83	1.88	1.93	1.93	1.92	1.88	1.82	1.76	1.86
(2)部屋の間取り、バリアフリー化	1.25	1.56	1.38	1.45	1.46	1.47	1.41	1.40	1.43
(3)近くに幼稚園や保育園、小学校をはじめ、教育施設がある	0.76	0.86	0.72	0.93	0.84	0.75	0.80	0.83	0.82
(4)近くに精神科の病院や障害者施設がある	-0.48	-0.41	-0.83	-0.66	-0.44	-0.55	-0.34	-0.13	-0.43
(5)近くに低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる	-0.04	0.15	-0.07	0.22	0.40	0.20	-0.11	-0.14	0.07
(6)近くに外国人の住民が多く住んでいる	-0.21	-0.06	-0.39	-0.17	0.10	-0.14	-0.11	-0.13	-0.13
(7)近くに同和地区がある	-0.02	0.28	-0.23	0.07	0.47	0.24	0.16	0.02	0.14

※「気になる」:2 「どちらかと言えば気になる」:1 「どちらかと言えば気にならない」:-1 「気にならない」:-2で算出(「分からぬ」の回答除く。)

問8 就職における場面について、次のような意見があります。あなたはどのように思いますか。《〇はそれぞれ1つ》



企業も人権尊重や環境保全の責任を負っていると考える人が8割を超える

「(5) 企業も人権の尊重、環境の保全などの社会的責任を負っている」について、「そう思う」、「どちらかと言うとそう思う」と回答した人の割合を合わせると8割を超える回答となっている。

性別でみると、ほとんどの項目で女性の方が「そう思う」、「どちらかと言うとそう思う」回答する傾向が強い。

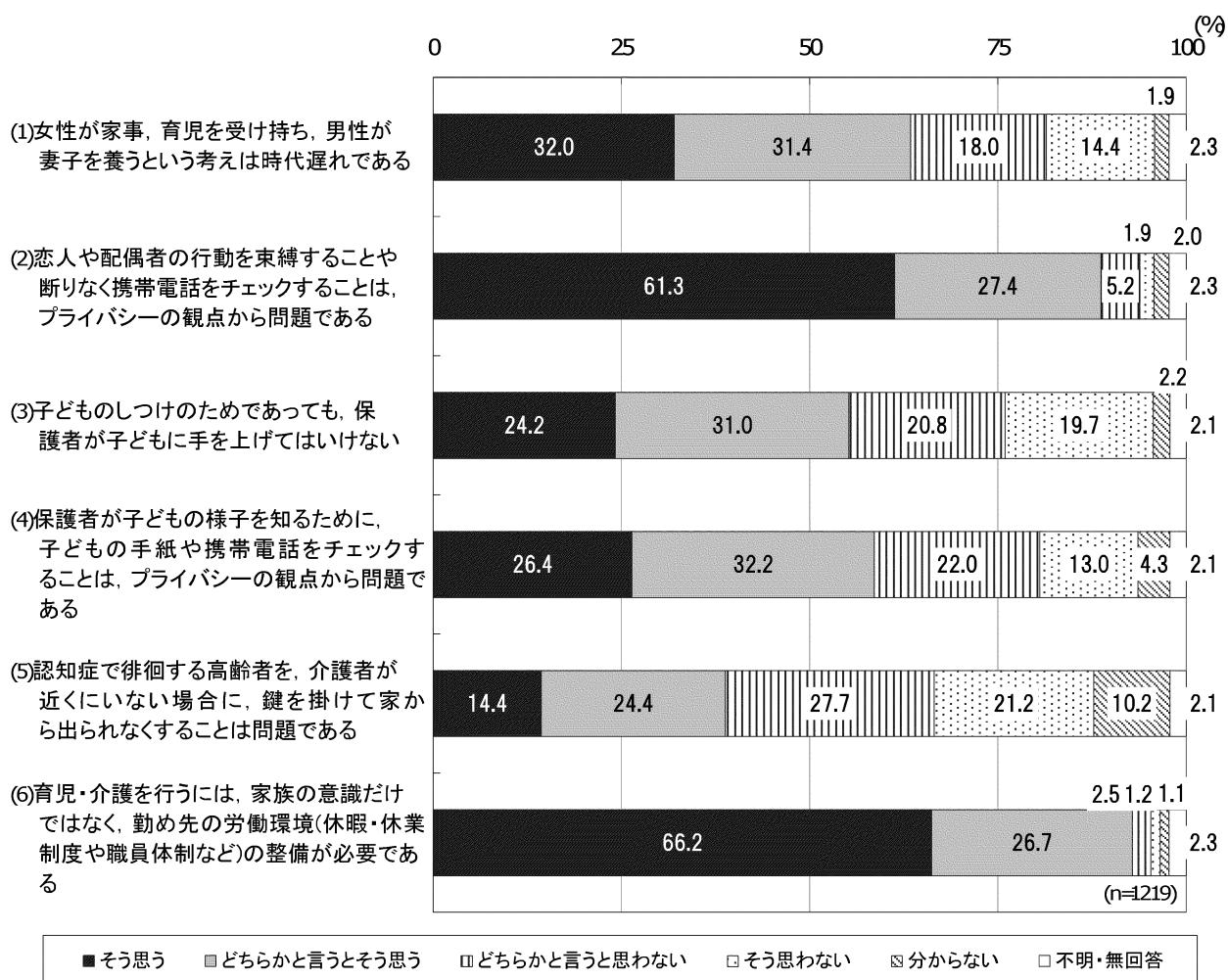
年代別でみると、「(2) 就職の際、女性に対して、結婚・出産予定の有無を聞くことは、会社の人事業務の一環であっても許されない」や「(4) 企業は経営状況やその規模に限らず、障害のある人を率先して雇用するべきである」について、20~40歳代の年代で「そう思わない」、「どちらかと言うと思わない」の方向に回答する傾向が強い。

◆加重平均(性別・年代)

	男 (n=510)	女 (n=696)	20歳代 (n=108)	30歳代 (n=168)	40歳代 (n=182)	50歳代 (n=203)	60歳代 (n=270)	70歳以上 (n=281)	全体 (n=1219)
(1)就職の際に、身元調査が行われることは許されない	0.21	0.56	-0.01	0.47	0.34	0.63	0.46	0.37	0.40
(2)就職の際、女性に対して、結婚・出産予定の有無を聞くことは、会社の人事業務の一環であっても許されない	0.16	0.27	-0.18	-0.25	-0.05	0.23	0.58	0.51	0.23
(3)外国人は文化や生活習慣の違いから日本社会に不慣れで、日本人と同様の能力が発揮できないという理由から、外国人が日本人より低い待遇を受けることは許されない	0.39	0.81	0.44	0.60	0.46	0.70	0.83	0.59	0.63
(4)企業は経営状況やその規模に限らず、障害のある人を率先して雇用するべきである	0.03	0.18	-0.67	-0.25	-0.23	0.07	0.45	0.58	0.11
(5)企業も人権の尊重、環境の保全などの社会的責任を負っている	1.36	1.36	1.48	1.43	1.32	1.41	1.32	1.29	1.36

※「そう思う」:2 「どちらかと言うとそう思う」:1 「どちらかと言うと思わない」:-1 「そう思わない」:-2で算出(「分からない」の回答除く。)

問9 家庭での生活場面について、次のような意見があります。あなたはどのように思いますか。《〇はそれぞれ1つ》



育児・介護のため、勤め先の労働環境の整備が必要と考える人が9割を超える

「(6) 育児・介護を行うには、家族の意識だけではなく、勤め先の労働環境の整備が必要である」について、「そう思う」、「どちらかと言うとそう思う」と回答した人の割合を合わせると9割を超える回答となっている。

性別でみると、ほとんどの項目で女性の方が「そう思う」、「どちらかと言うとそう思う」と肯定的な回答をする傾向が強い。

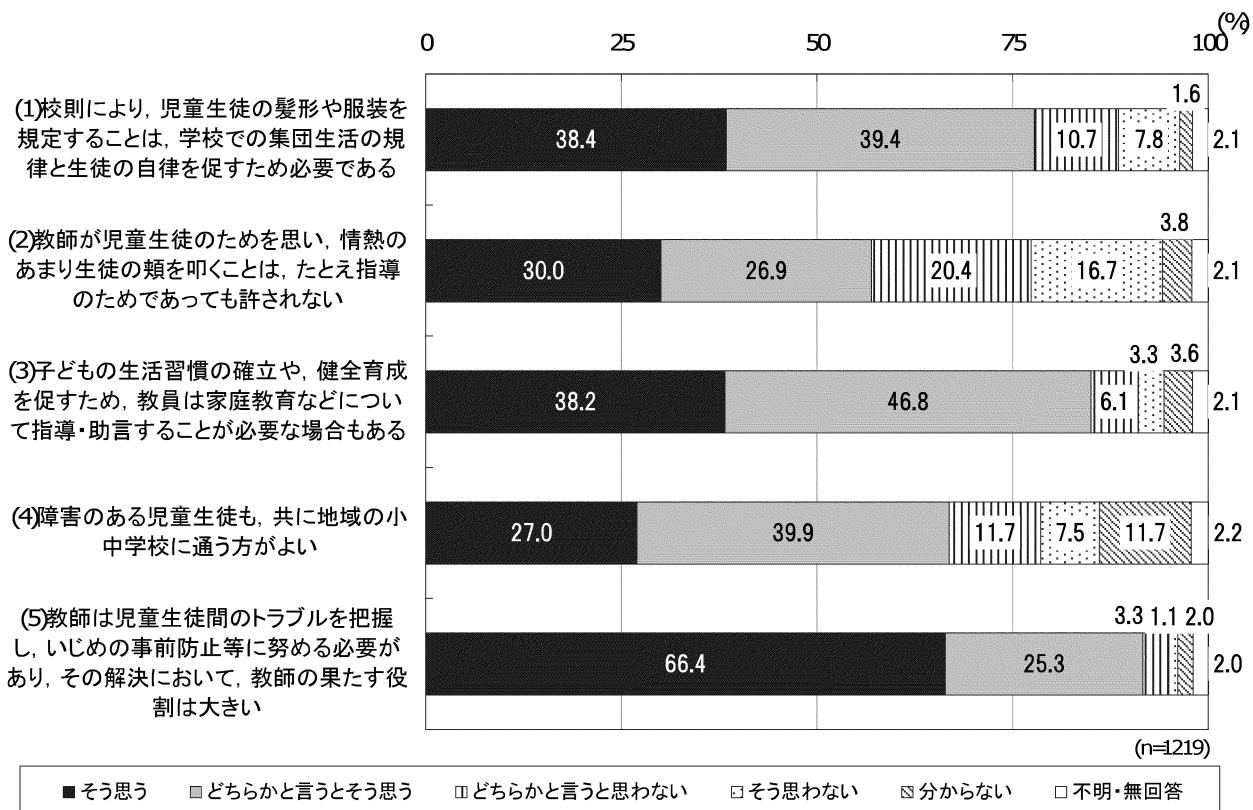
年代別でみると、「(1) 女性が家事、育児を受け持ち、男性が妻子を養うという考えは時代遅れである」、「(6) 育児・介護を行うには、家族の意識だけではなく、勤め先の労働環境の整備が必要である」で20~50歳代で「そう思う」、「どちらかと言うとそう思う」と肯定的な回答をする傾向が強い。

◆加重平均(性別・年代)

	男 (n=510)	女 (n=696)	20歳代 (n=108)	30歳代 (n=168)	40歳代 (n=182)	50歳代 (n=203)	60歳代 (n=270)	70歳以上 (n=281)	全体 (n=1219)
(1)女性が家事、育児を受け持ち、男性が妻子を養うという考えは時代遅れである	0.34	0.63	0.75	0.56	0.57	0.59	0.39	0.41	0.51
(2)恋人や配偶者の行動を束縛することや断りなく携帯電話をチェックすることは、プライバシーの観点から問題である	1.41	1.52	1.31	1.29	1.44	1.59	1.61	1.46	1.47
(3)子どものしつけのためにあっても、保護者が子どもに手を上げてはいけない	0.08	0.30	-0.04	-0.29	-0.20	0.24	0.41	0.63	0.20
(4)保護者が子どもの様子を知るために、子どもの手紙や携帯電話をチェックすることは、プライバシーの観点から問題である	0.31	0.47	0.37	0.21	0.03	0.42	0.50	0.62	0.39
(5)認知症で徘徊する高齢者を、介護者が近くにいない場合に、鍵を掛けて家から出られなくすることは問題である	-0.20	-0.19	-0.77	-0.56	-0.60	-0.28	0.00	0.40	-0.19
(6)育児・介護を行うには、家族の意識だけではなく、勤め先の労働環境(休暇・休業制度や職員体制など)の整備が必要である	1.51	1.67	1.66	1.74	1.60	1.71	1.50	1.48	1.60

※「そう思う」:2 「どちらかと言うとそう思う」:1 「どちらかと言うと思わない」:-1 「そう思わない」:-2で算出(「分からない」の回答除く。)

問10 学校における場面について、次のような意見があります。あなたはどのように思いますか。《〇はそれぞれ1つ》



いじめの防止や解決のため教師の果たす役割が大きいと考える人が9割を超える

「(5) 教師は児童生徒間のトラブルを把握し、いじめの事前防止等に努める必要があり、その解決において、教師の果たす役割は大きい」について、「そう思う」、「どちらかと言うとそう思う」と回答した人の割合を合わせると9割を超える回答となっている。

性別でみると、「(2) 教師が児童生徒のためを思い、情熱のあまり生徒の頬を叩くことは、たとえ指導のためであっても許されない」について、女性の方が「そう思う」、「どちらかと言うとそう思う」と肯定的な回答をする割合が高くなっている。

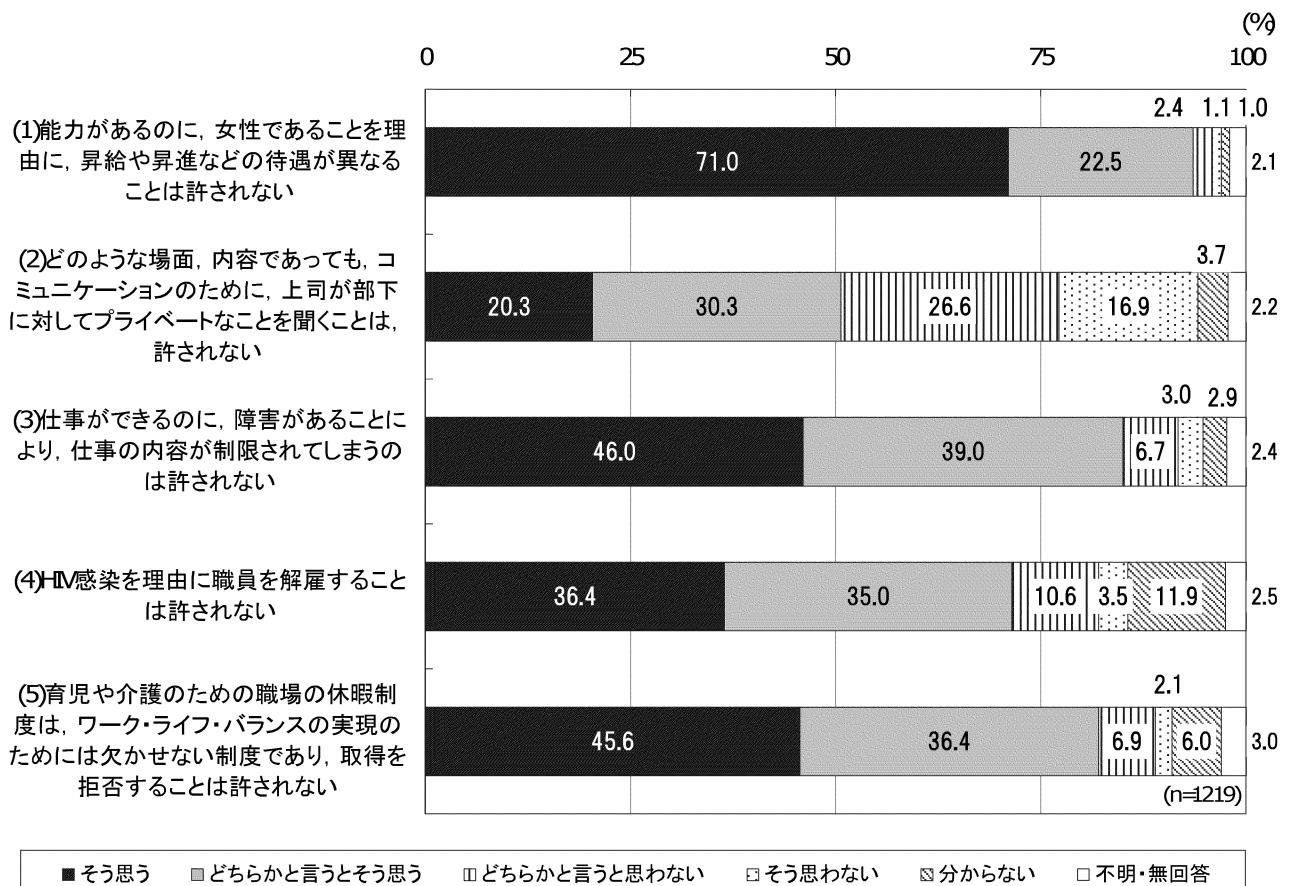
年代別でみると、「(2) 教師が児童生徒のためを思い、情熱のあまり生徒の頬を叩くことは、たとえ指導のためであっても許されない」、「(4) 障害のある児童生徒も、共に地域の中学校に通う方がよい」、「(5) 教師は児童生徒間のトラブルを把握し、いじめの事前防止等に努める必要があり、その解決において、教師の果たす役割は大きい」について、50歳代以上の年代で「そう思う」、「どちらかと言うとそう思う」と肯定的な回答をする傾向が強い。

◆加重平均(性別・年代)

	男 (n=510)	女 (n=696)	20歳代 (n=108)	30歳代 (n=168)	40歳代 (n=182)	50歳代 (n=203)	60歳代 (n=270)	70歳以上 (n=281)	全体 (n=1219)
(1)校則により、児童生徒の髪形や服装を規定することは、学校での集団生活の規律と生徒の自律を促すため必要である	0.97	0.91	0.83	0.96	0.83	0.89	0.85	1.15	0.93
(2)教師が児童生徒のためを思い、情熱のあまり生徒の頬を叩くことは、たとえ指導のためであっても許されない	0.05	0.59	0.07	0.12	0.07	0.44	0.52	0.57	0.35
(3)子どもの生活習慣の確立や、健全育成を促すため、教員は家庭教育などについて指導・助言することが必要な場合もある	1.19	1.16	1.21	1.13	1.21	1.15	1.04	1.31	1.17
(4)障害のある児童生徒も、共に地域の小中学校に通う方がよい	0.77	0.78	0.38	0.86	0.70	0.91	0.85	0.79	0.78
(5)教師は児童生徒間のトラブルを把握し、いじめの事前防止等に努める必要があり、その解決において、教師の果たす役割は大きい	1.56	1.61	1.35	1.41	1.58	1.60	1.66	1.72	1.59

※「そう思う」:2 「どちらかと言うとそう思う」:1 「どちらかと言うと思わない」:-1 「そう思わない」:-2で算出(「分からない」の回答除く。)

問11 職場における場面について、次のような意見があります。あなたはどのように思いますか。《〇はそれぞれ1つ》



性別により職場での待遇が異なることや障害の有無による仕事の制限を許されないと考える人は約9割

「(1) 能力があるのに、女性であることを理由に、昇給や昇進などの待遇が異なることは許されない」について、「そう思う」、「どちらかと言うとそう思う」と回答した人の割合を合わせると9割を超える回答となっている。

また、「(3) 仕事ができるのに、障害があることにより、仕事の内容が制限されてしまうのは許されない」についても、「そう思う」、「どちらかと言うとそう思う」と回答した人の割合を合わせると8割を超えている。

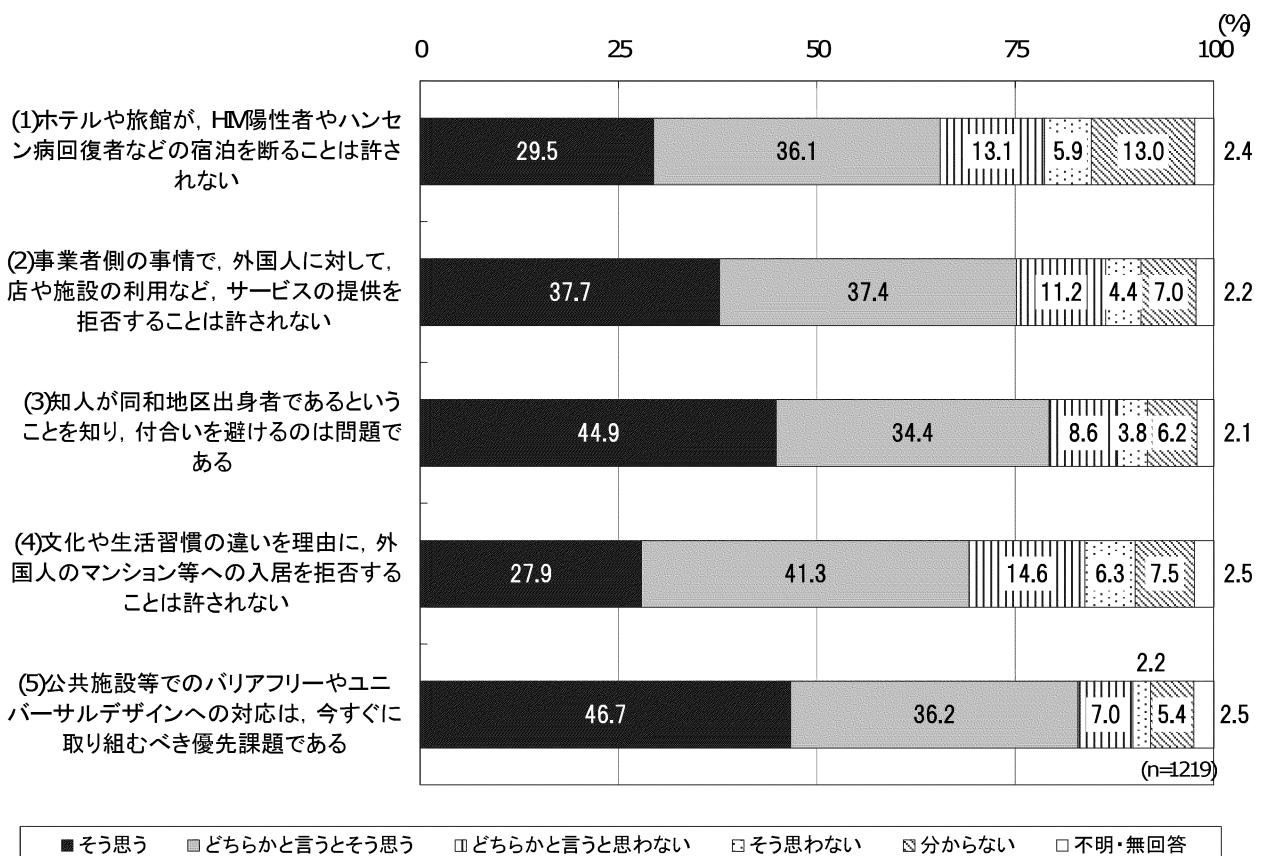
性別でみると、すべての項目で女性の方が「そう思う」、「どちらかと言うとそう思う」と肯定的な回答をする傾向が強い。

◆加重平均(性別・年代)

	男 (n=510)	女 (n=696)	20歳代 (n=108)	30歳代 (n=168)	40歳代 (n=182)	50歳代 (n=203)	60歳代 (n=270)	70歳以上 (n=281)	全体 (n=1219)
(1)能力があるのに、女性であることを理由に、昇給や昇進などの待遇が異なることは許されない	1.57	1.72	1.74	1.72	1.60	1.66	1.68	1.58	1.65
(2)どのような場面、内容であっても、コミュニケーションのために、上司が部下に対してプライベートなことを聞くことは、許されない	0.03	0.18	-0.79	-0.62	-0.44	0.08	0.65	0.76	0.11
(3)仕事ができるのに、障害があることにより、仕事の内容が制限されてしまうのは許されない	1.13	1.34	1.08	1.23	1.06	1.32	1.35	1.30	1.25
(4)HIV感染を理由に職員を解雇することは許されない	0.95	1.14	1.16	1.10	0.99	1.26	1.10	0.83	1.05
(5)育児や介護のための職場の休暇制度は、ワーク・ライフ・バランスの実現のためには欠かせない制度であり、取得を拒否することは許されない	1.24	1.32	1.37	1.46	1.26	1.34	1.27	1.13	1.28

※「そう思う」:2 「どちらかと言うとそう思う」:1 「どちらかと言うと思わない」:-1 「そう思わない」:-2で算出(「分からない」の回答除く。)

問12 社会での生活場面について、次のような意見があります。あなたはどのように思いますか。《〇はそれぞれ1つ》



公共施設等でのバリアフリー対応が優先課題と考える人が8割を超える

「(5) 公共施設等でのバリアフリーやユニバーサルデザインへの対応は、今すぐ取り組むべき優先課題である」について、「そう思う」、「どちらかと言うとそう思う」と回答した人の割合を合わせると8割を超える。

また、(1)～(4)の設問についても、7割前後の人人が「そう思う」、「どちらかと言うとそう思う」と回答している。

性別でみると、すべての項目で女性の方が「そう思う」、「どちらかと言うとそう思う」と肯定的な回答をする傾向が強い。

◆加重平均(性別・年代)

	男 (n=510)	女 (n=696)	20歳代 (n=108)	30歳代 (n=168)	40歳代 (n=182)	50歳代 (n=203)	60歳代 (n=270)	70歳以上 (n=281)	全体 (n=1219)
(1)ホテルや旅館が、HIV陽性者やハンセン病回復者などの宿泊を断ることは許されない	0.77	0.88	0.76	0.86	0.72	0.97	1.00	0.63	0.83
(2)事業者側の事情で、外国人に対して、店や施設の利用など、サービスの提供を拒否することは許されない	0.87	1.15	1.13	1.12	0.79	1.14	1.12	0.90	1.02
(3)知人が同和地区出身者であるということを知り、付合いを避けるのは問題である	1.14	1.22	1.12	1.36	1.01	1.41	1.28	0.93	1.18
(4)文化や生活習慣の違いを理由に、外国人のマンション等への入居を拒否することは許されない	0.68	0.84	0.84	0.76	0.55	0.81	0.91	0.76	0.78
(5)公共施設等でのバリアフリーやユニバーサルデザインへの対応は、今すぐに取り組むべき優先課題である	1.20	1.36	1.33	1.30	1.18	1.35	1.26	1.31	1.28

※「そう思う」:2 「どちらかと言うとそう思う」:1 「どちらかと言うと思わない」:-1 「そう思わない」:-2で算出(「分からない」の回答除く。)